



よげんしゃ 預言者ダニエル

ダビデ王とソロモン王が国を治めていた時から、長年の歳月がたちました。そのころ、エレミヤという若い預言者が、バビロン軍が攻めて来るという神様からの警告を発していました。

バビロン軍はエルサレムの町を包囲し、数人をほりよとして連れ去り、最後には町を征服し、焼きはらってしまいます。

ほりよとしてバビロンに連れて行かれた中に、ダニエルという若者がいました。ダニエルは、ほりよであったにもかかわらず、神様によって大に使われました。ある時、神様はダニエルに、ネブカデネザル王の見た夢の解き明かしをさせ、未来を予見させます。ダニエル自身も、将来起こる出来事について、おどろきに満ちた幻を神様から受け取ります。

ダニエル書の第1-2章には、これらの出来事や、ネブカデネザル王が夢で見た幻についてのお話が書かれています。また、ダニエル書の第6章には、ダニエルがライオンの危機にあうお話も書かれています。読んでみましょう。